

第10節 外国語

1 導入のポイント

(1) 導入の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題等を踏まえて、導入された。

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の職種や職業だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される。
- 外国語を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどの確に理解したり適切に伝えたりする力を身に付けるために指導の充実が図られている。
- 児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められる。一方で、学校段階間の接続の不十分さに課題がある。
- 外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、総合的・系統的に教科としての外国語を行うとともに、中学校への接続を図ることが必要である。

(2) 導入の要点

① 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で考えていくかという物事を捉える視点や考え方。外国語でコミュニケーションを図る「根本」となるもの。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

② 外国語科の目標

外国語教育において育成を目指す資質・能力を明確にした上で、**各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」**を明確にするという観点から設定している。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、**コミュニケーションを図る基礎**となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技術を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

【学びに向かう力・人間性等】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

③ 英語の目標及び内容

ア 目標

「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の五つの領域について目標を設定している。また、より弾力的な指導ができるよう、学年ごとではなく、2学年間を通した目標である。

聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕
<p>ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。</p>	<p>ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。</p> <p>「読み方」とは、文字の名称の読み方であり、文字を見てその名称を発音できるようにする。</p> <p>イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。</p> <p>語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導する。<u>小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留める。</u></p>	<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それに応じたりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。</p> <p>ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>
話すこと〔発表〕	書くこと	<p>* 「聞くこと」、「話すこと」は習得、「読むこと」、「書くこと」は慣れ親しみが目標となる。ただし、活字体の大文字・小文字は、書くことができるように指導する。</p>
<p>ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p>	<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。</p> <p>小学校の段階で、大文字及び小文字を正しく書き分けることができるようにする。</p> <p>イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。</p>	<p>※語順を意識しながら、語と語の区切りに注意しながら書き写すことができるように指導する。また、英語で書かれた文章を参考にして、その中の一部を書き換えて文章を書くことができるように指導する。</p>

イ 内容

知識及び技能

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に外国語を用いた言語活動を通して、外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、「読むこと」、「書くこと」に慣れ親しみ、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で話したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにする。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力・判断力・表現力等」を育成するに当たり、「知識及び技能」に示す事項を活用して「聞くこと」「読むこと」、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域ごと具体的な言語活動を通して指導する。また言語の働きに関する事項を適切に取り上げて指導する。

2 指導計画作成上の留意点

(1) 指導計画の作成と内容の取扱い

指導計画の作成と内容の取扱いについては、次のような改善が図られた。第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意した上で指導計画を作成することが大切である。

- ・言語材料については、発達の段階に応じて、児童が受容するものと発信するものがあることに留意する。
- ・「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、音声と文字を関連付けて指導する。
- ・文と文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導を行うのではなく、言語活動の中で、基本的な表現として繰り返し触れることを通して指導する。

(2) 障がいのある児童などへの指導

○ 外国語科における特色

外国語活動と同様に、音声による情報を処理することが困難な児童への配慮に加えて、一つの単語の文字数が多い、長い文など複雑な文字情報になると、手掛かりをつかんだり、細部に注意をむけたりするのが難しい児童への配慮が大切である。

○ 外国語科における配慮

外国語の文字を提示する際は、語のまとまりや文の構成を見て捉えやすくするよう、字体をそろえる、線上に文字を書く、語彙・表現などを記したカードを黒板に貼るなど、児童が見やすい位置や順序など、表記の仕方や貼り方に配慮する必要がある。

3 Q&A

Q1 「読むこと」については、どのようなことを指導するのですか。また、どのようなことに留意して指導することが必要ですか。

「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようにする。」こと、及び「音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」ことについて指導します。

文字については、文字を見てその名称が発音できることを示しています。外国語活動で「聞いて分かるようになった」活字体の大文字・小文字を、外国語科では自分で読めるように指導します。

また、語句や表現については、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現に限られるものであり、写真やイラスト等の言語外情報を伴って示された際に、その語句や表現を推測して読むことができるように指導します。

Q2 「書くこと」については、どのようなことを指導するのですか。また、どのようなことに留意してしどうすることが必要ですか。

大文字、小文字を活字体で正しく書くことができるようにします。これまで中学校での指導内容であったことを、小学校で扱うこととなります。

また、英語の語順を意識しながら簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、例文を参考にして書いたりできるように指導します。その際、その語句や表現、英文は音声で慣れ親しんだものであることに留意します。

Q3 外国語科では、どのくらいの語数を指導しますか。また、どの程度までできるように指導することが必要ですか。

外国語活動で取り扱った語を含んだ、中学校の学習でも基礎となり、繰り返し学ぶことが期待される600～700語程度の語を指導します。

これらの語彙を全て覚えて使いこなすということではなく、聞いたり読んだりして意味が理解できる「受容語彙」と話したり書いたりして表現できる「発信語彙」とに分けて指導することが重要です。

Q4 なぜ、小学校の外国語科では「文型」や「文法」ではなく、「文構造」という用語を用いるのですか。

これまで外国語教育の中で見られたような、言語活動の中で文法の用語や用法の指導を行うのではなく、これからの外国語教育では、基本的な表現として繰り返し聞いたり、話したりするなど、活用することをとおして、日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すこととしているためです。

Q5 三人称の主語（he、she など）や動名詞や過去形を指導する際に、どのようなことに留意する必要がありますか。

代名詞を含む文は、基本的な一つの英文として扱い、代名詞だけを独立して指導することがないようにします。he や she などの使い方を文法の解説をしたり複雑な文になったりしないような指導が必要です。また、動名詞や過去形についても、その使い方について焦点を当てて指導するのではなく、I like playing tennis. や I went to Okinawa. のように、一つの表現として指導することとします。